※令和４年度以降入学生用

学校番号	414

令和５年度　国語科

教科	国語	科目	言語文化	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「精選　言語文化」（東京書籍）						
副教材等	「新しい古典の学習２in１スタイル　学ぶぞ　古文と漢文」（尚文出版） 「学ぶぞ古文と漢文　基本練習ノート」（尚文出版） 「ポイント書く解く　マスター古典１　二訂版」（京都書房） 「新版七訂　新訂総合国語便覧」（第一学習社） 「国語便覧ワークノート」（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

多様な古典作品を読めるようになることを目標として力をつけていきます。そのための基礎としての文法や重要単語は繰り返し学習し自分のものとしましょう。さらに、積極的に古典作品にも親しむようにしてください。自分の考えを文字で表現し、学習の進み具合を客観的に見る態度を培って参りましょう。また、近代作品と古典作品を比較しながら読み進めていきましょう。

２　学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

(1)　生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2)　論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3)　言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

※令和４年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
一学期	古文入門 ［教材］ 古文の言葉と仮名遣い （p.１０８～１０９ １１２～１１３）	ａ：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ｃ：現代語にはない語や、現代語とは意味の異なる語の意味を、古語辞典を用いて調べている。	記述の確認及び定期考査 小テスト		行動の観察と確認
	古文入門 ［教材］ 「児のそら寝」 （p.１０６～p.１０７）	ａ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ｂ［　読　］：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ｃ：現代語訳に取り組み、説話の内容を理解しようとしている。	記述の確認及び定期考査 小テスト	記述の確認及び定期考査	行動の観察と確認
	随筆 ［教材］ 徒然草 （p.１２０～p.１２１） 「丹波に出雲といふ所あり」	ａ：　我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ｂ［　読　］：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ｃ：　進んで文語のきまりや古典特有の表現を理解し、学習課題に沿って作者の考えを的確に捉えようとしている。	記述の確認及び定期考査 小テスト	記述の確認及び定期考査 ワークシートの確認	行動の観察と確認
	詩歌 ［教材］ 秋の航―俳句抄 （p.５６～p.５９）	ａ：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ｂ［　書　］自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 ｃ：本文中の難解な語句や表現を、国語辞典などを用いて調べている。	記述の確認及び定期考査	記述の確認及び定期考査	行動の観察と確認 発表を評価

※令和４年度以降入学生用

	漢文入門 ［教材］ 訓読の基本 （p.２３０～２３９）	ａ：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している ｃ：進んで漢文の特色や訓読のきまりを理解し、見通しを持って、古典を学ぶ意味について考えを持とうとしている。	記述の確認及び定期考査		行動の観察と確認 発表を評価
二学期	小説１ ［教材］ 「羅生門」 芥川龍之介 （p.２２～p.３５） 小説１ ［教材］ 「翻訳作品を原作と読み比べる」 （p.３６～p.３９）	ａ： 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ｂ［　読　］：作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 ［　書　］：二つの作品を読んで、比較し、鑑賞文を書いている。 ｃ： 進んで描かれている内容についての見解をまとめ、学習課題に沿って、発表や討論を通じて得た他の意見も踏まえながら、考えを深めようとしている。	記述の確認及び定期考査	記述の確認及び定期考査 鑑賞文の確認	行動の観察と確認
	寓話 ［教材］ 「朝三暮四」 （p.２４７） 「塞翁馬」 （p.２４８～p.２４９）	ａ： 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ｂ［　読　］： 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 ｃ：進んで訓読のきまりを理解し、学習課題に沿って、故事成語の元になった話を読み、故事成語の果たす役割について考えようとしている。	記述の確認及び定期考査 小テスト	記述の確認及び定期考査	行動の観察と確認
	歌物語 伊勢物語 （p.１４０～p.１４４） ［東下り］	ａ： 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ｂ［　読　］： 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ｃ： 進んで歌物語の特徴や表現の仕方について理解し、学習課題に沿って、各章段に描かれた内容を的確に捉えようとしている。	記述の確認及び定期考査	記述の確認及び定期考査	行動の観察と確認

※令和４年度以降入学生用

	歌物語 伊勢物語 （p. １４５～p. １４７） ［筒井筒］	ａ： 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ｂ［　読　］： 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ｃ： 進んで歌物語の特徴や表現の仕方について理解し、学習課題に沿って、各章段に描かれた内容を的確に捉えようとしている。	記述の確認及び定期考査	記述の確認及び定期考査	行動の観察と確認
三学期	作り物語と軍記物語 ［教材］ 平家物語 （p. １９４～p. ２０３） ［木曽の最期］	ａ： 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ｂ［　読　］： 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ［　書　］：積極的に鑑賞文を書いている。 ｃ： 進んで軍記物語特有の表現などについて理解し、学習課題に沿って、登場人物の描かれ方を読み取ろうとしている。	記述の確認及び定期考査	記述の確認及び定期考査	行動の観察と確認 発表を評価
	近代の短歌 ［教材 こころの鉦―短歌抄 （p. ５２～p. ５５）	ａ： 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ｂ［　書　］：自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 ｃ： 進んで短歌や俳句の特徴や表現効果を理解し、学習課題に沿って、それぞれの歌に込められた情景や心情を読み取ろうとしている。	記述の確認及び定期考査	記述の確認及び定期考査	行動の観察と確認

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・書くこと　…　（　10　）時間

・読むこと　…　（　60　）時間